

特別寄稿

保護者支援を実践できる保育者を養成する 教育方法の研究

——保護者参加型教育プログラムの開発と
新型コロナウイルス感染症拡大状況下での実施——

Research on Educational Methods to Train Childcare Workers supporting guardians :
Development of Guardians Participation Education Program and
Implementation Under the Spread of COVID-19

中 西 利 恵 ・ 曲 田 映 世

1. 研究の背景と目的

保育者の養成段階において、保護者支援を実践できる力をいかに育てるかという課題には、保護者支援・子育て支援を体験的に学ぶ「実習」が義務付けられていない現状において、養成校の問題意識等により様々な取り組みがなされている。厚生労働省より示されている教科目の教授内容の選択必修科目「保育実習Ⅱ」では、目標に「3. 既習の教科目や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び子育て支援について総合的に理解する。」が設定され、その目標達成のための内容として「3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 (1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育 (2) 入所している子どもの保護者に対する子育て支援及び地域の保護者等に対する子育て支援 (3) 関係機関や地域社会との連携・協働」が具体的に示されている。しかし、増田ら (2015)¹⁾による保育所

実習における保育現場の保護者支援の指導の実態及び保育者の意識調査の結果から、保護者支援に関する実習指導は十分なされてこなかった背景が提示された。具体的には、保育所実習指導の責任者を対象に、実際の保育所実習において、保護者支援についての学びがどの程度可能となっているのか、その実態や保育者の意識についてアンケート調査を行った結果、実習における保護者支援の学びについて、多くの項目で経験させたいと思っている一方、実際に経験していると意識している事項は、「送迎時の観察」や「延長保育の観察・説明」「連絡帳の説明」等に限られており、経験させたいことと実際経験していることには違いがあることが明らかとなった。

養成段階における子育て支援活動の実態については、橘・小原 (2014)²⁾が行った現役の保育者を対象とした大規模調査から明らかにされている。ここでの研究結果からも、「養成時に学生が保護者とかかわり、子育て支援力を養成する場をつくりだすことが喫急の課題」として

あげられている。

一方、福井ら (2009)³⁾は、社団法人全国保育士養成協議会の会員校を対象に、子育て支援プログラムの「ねらい」とその「内容」について現状把握の調査を実施した。養成校(教員)として子育て支援に学生が参加するにあたっての「ねらい」について、学生が実践によって学ぶ内容として考えられるものを整理し、質問項目として5つのカテゴリーからなる15項目を設定した。分析結果から、各養成校で取り組まれている子育て支援の実践の「ねらい」は多岐にわたるが、今回の5つのカテゴリーすなわち「基礎知識」「態度・姿勢」「計画・反省・記録」「技術」「かかわり」のねらいを設定しようとすると、「授業との関連」の位置づけを図り、実践においては「学生主導」に方向付けるような子育て支援プログラムの実践の場が必要であると述べている。さらに福井ら (2010)⁴⁾は、2009年の研究をふまえ、「授業との関連」「学生主導」の子育て支援を実践するにあたって、振り返りを重視する実践を行った。その結果、①保護者と私(学生)、②保護者と保育者、③保護者と子ども、④保護者と保護者、⑤子どもと子ども、の概ね5つの視点が浮かび上がったことが示された。そして、その中から学生の「子育て支援」を捉えていくための視点(観察方法)として、概ね①②③の3つに焦点化した。

子ども発達学科でも、福井らや小原らと共通する問題意識のもと、正課教育と準正課教育の両方で保護者参加型の教育プログラムを展開する教育方法を試みてきた。我々は、保育者の養成段階において保護者支援を実践できる力をいかに育てるかという課題への取り組みとして、2008年度から実施の「よつばのクローバー」(地域の0～3歳時の未就園子育て家庭を対象と

したあそびの広場)と、2016年3月に開設した「あいあい相愛おはなしのへや」(以下、「あいあい」と示す)の保護者参加型教育プログラムを開発してきた。「あいあい」は、地域の主に就園前の子どもとその保護者を対象に、おはなし隊(学生)が「おはなし」を様々なスタイルで上演し、おはなしだけでなく一緒に遊びを楽しむ活動である。これらのプログラムは、地域子育て支援活動・社会貢献活動としても位置づけている。「よつばのクローバー」については、開発した教育方法や教育効果については、「保育・子育て支援演習」(2017)⁶⁾と「子ども理解の理論及び方法」(2019)⁷⁾にまとめた。

ところで、小原ら (2018)⁵⁾は、保育者養成校での保育・子育て支援活動は、「教室型」「ひろば型」「派遣型」の大きく3つに分けることができとしている。「教室型」と「ひろば型」は、保育者養成校が学内等において実施する活動で、「教室型」は親子教室や親子ワークショップ等の活動を指す。「ひろば型」は、親子の交流の場や子育て等に関する相談、援助の場を提供する。「派遣型」は、地域の親子活動を行っている場(地域子育て支援拠点、児童館、保育所等)に学生が出向き、活動する形態である。我々が実施している保護者参加型教育プログラムは「教室型」の形態をとっている。学内の施設を活用し、保育者養成課程内で子育て支援力を養成する教育方法として、ボランティアやイベント的な保護者とのかかわりではなく、正課教育として活動を単位化した学びのシステムの構築をめざしてきた。PDCAにより取り組む中で、改善が難しい課題として、①「活動の実施回数」の改善(年間及び4年間の養成期間における活動実施回数の安定的な確保と継続的な維持:活動回数が少ない、正課で活動時間を取れない)と、②「学生の意識」の改善(子ど

もだけでなく保護者も一緒に活動及び保護者にも関わることに對し、先行する苦手意識や不安の大きさとその解消：活動の場があっても積極的にコミュニケーションを図ることができないまま終わってしまう）があがってきた。橘・小原（2014）の研究結果²⁾にも「学生時代の経験が、実際の『支援する』ことにつながっていないということも示唆された。自由記述からは『活動回数が少ない』『親子と関わることの不安や困難さが先に立った』等の意見があった。これらの課題をどのように改善するかが、学びの連続性を検討する上で今後求められるのではないかと述べられており、我々の課題とも一致する。

そこで本研究の目的の一つは、上記に示した①と②の2つの課題改善をめざし、開発した教育方法（実践方法）の提案とその教育効果について報告することである。さらに、目的のもう一つは、開発した保護者参加型教育プログラムを、2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため予定通り実施することができなくなった。しかし、可能な限り学生の学修機会の確保のため、新型コロナウイルス感染症拡大の状況下での保護者参加型教育プログラムの実施の実

現と学生の学びについて報告することである。

2. 開発した教育方法

(1) 課題「活動の実施回数」の改善方法

直接的に保護者と関わる場を1年間を通して定期的に継続して設定するため、「保育・教育マネジメントB」（2年次開講）・「保育・教育マネジメントC」（3年次開講）・「保育・教育マネジメント」（4年次開講）科目を活用した。これら科目は、学内プロジェクトの企画・運営に参画し、上級生をモデルとしながら、多様な世代との目的に合わせた交流計画、連携の実行を図ることができるよう実践力やマネジメント力の向上を目的としている。学生による「おはなし隊」を結成して、「あいあい」を年間6回の開設し、この活動を中心に事前・事後指導を入れて通年で開講を計画した。こうすることで2～4年次にかけて継続して履修することが可能となった。つまり、本実践活動を繰り返し経験することができ、段階を追った学びを実現することができた。2019年度の授業計画を表1に示す。

表1 「おはなし隊」の2019年度「保育・教育マネジメントB～D」授業計画

回数	実施日	授業内容（「あいあい」実施日は主な活動内容）
第1回	4月30日（火）	オリエンテーション
第2回	5月15日（水）	実践計画作成、実践準備
第3回	5月23日（木）	実践準備、模擬実践（リハーサル）
第4回	5月23日（木） 「第1回あいあい」実施	○絵本と体操『パンダなりきりたいそう』 ○おはなし劇『まほうのでんしレンジ』 ○大型絵本『ぴょん』 ○おはなし劇『おおきなかぶ』 ○おはなし隊と一緒に遊ぶ（おはなし隊と絵本を読んだり、ビニール袋に色紙を入れてカラフルなてるてるぼうずを作る等好きな遊びを楽しむ。） ◆片付け後に本日の活動のふり返り
第5回	7月9日（火）	実践計画作成、実践準備
第6回	7月11日（木）	練習日
第7回	7月16日（火）	実践準備、模擬実践（リハーサル）
第8回	7月18日（木）	練習日

第9回	7月25日(木) 「第2回あいあい」 実施	模擬実践(リハーサル) ○大型絵本『ぞうくんのさんぽ』 ○ペープサート『いぬのおまわりさん』 ○おはなし劇『おべんとうバス』 ○大型絵本『ともだちや』 ○おはなし隊と一緒に遊ぶ(おはなし隊と絵本を読んだり、好きな色のおりがみでさかなを作り、さかなつりする等好きな遊びを楽しむ。) ◆片付け後に本日の活動のふり返し
第10回	9月17日(火)	実践計画作成、実践準備
第11回	9月19日(木)	実践準備、模擬実践
第12回	9月24日(火)	実践準備、模擬実践(リハーサル)
第13回	9月26日(木) 「第3回あいあい」 実施	○パネルシアター『はらぺこきょうりゅうぺこくん』 ○大型絵本『おめんです』 ○紙芝居『アンパンマンとドキンちゃん』 ○おはなし劇『でんしゃにのって』 ○おはなし隊と一緒に遊ぶ(おはなし隊と絵本を読んだり、折り紙やお絵かき等好きな遊びを楽しむ。) ◆片付け後に本日の活動の感想コメント
第14回	10月3日(木)	動画による実践記録を活用したふり返し
第15回	10月15日(火)	実践計画作成、実践準備
第16回	11月20日(水)	実践準備、模擬実践(リハーサル)
第17回	11月21日(木) 「第4回あいあい」 実施	○おはなし劇『わたしはだあれ』 ○ペープサート『とっこ とっこ』 ○おはなし劇『なきごえバス』 ○大型絵本『だるまさんが』 ○おはなし隊と一緒に遊ぶ(おはなし隊と絵本を読んだり、折り紙やお絵かき等好きな遊びを楽しむ。)
第18回	11月26日(火)	動画による実践記録を活用したふり返し
第19回	12月3日(火)	実践計画作成、実践準備
第20回	12月11日(水)	実践準備、模擬実践(リハーサル)
第21回	12月14日(土) 「第5回あいあい」 実施	○大きなパネル紙芝居『赤鼻のトナカイ』 ○うたと合奏『あわてんぼうのサンタクロース』 ○おはなし劇『てぶくろ』 ○おはなし隊と一緒に遊ぶ(おはなし隊と絵本を読んだり、画用紙のもみの木や星にシールを貼ったりお絵かきをして、本物のもみの木に飾る等好きな遊びを楽しむ。)
第22回	12月18日(水)	動画による実践記録を活用したふり返し
第23回	1月15日(水)	実践準備、模擬実践
第24回	1月22日(水)	実践準備、模擬実践(リハーサル)
第25回	2月6日(木) 「第6回あいあい」	○大型紙芝居『はるかきりやのきょうりゅうクランチ あいさつのえほん』 ○ペープサート『やさいのおなか』 ○大型絵本『はらぺこあおむし』 ○人形劇『3匹のやぎのがらがらどん』 ○おはなし隊と一緒に遊ぶ(おはなし隊と絵本を読んだり、折り紙やお絵かき等好きな遊びを楽しむ。)
第26回	2月6日(木)	動画による実践記録を活用したふり返し
第27回	3月12日(木)	総合的なふり返し、課題抽出 (1年間の「おはなしのへや」活動報告内容から)
第28回	3月26日(木)	課題への対応、教材研究等

注) 表中の「あいあい」は「あいあい相愛おはなしのへや」の通称である

(2) 課題「学生の意識」の改善方法

「親子と関わることにに対する不安や困難さがどうしても先に立つ」ことにより、活動を始め

た初期の段階ではほとんどすべての学生が、どのように保護者とかかわりを始めたらよいのかの点で悩んでいる。これは活動回数を重ねるう

ち改善されていくと考えるが、活動回数が限られているという制約の中で、いかに教育効果を高めるかが課題である。(1)の改善方法と連動させ、正統的周辺参加の概念を導入することにより改善を図った。具体的には、2～4年次の「保育・教育マネジメントB～D」科目を連動させることで、2年次から学年進行にともない、活動に対する「周边的」な参加から「中心的」な役割を果たすように変化していく教育方法を導入した。これらの授業の到達目標として、「上級生をモデルにして、自己の学びの見通しをより明確にすることができる」「学年進行に伴い『周边的』な位置からより『中心的』な役割を果たすようになっていくことができる」を設定し、実践活動を通して、他者への信頼を高めると同時に、自己への信頼を高め、不安や苦手意識等の解消をめざした。

3. 課題に対する教育効果の検証

一つ目の課題「活動の実施回数」については、2.(1)の開発した教育方法を実施し、年間6回の活動の継続が可能となったことで改善できたと考える。

二つ目の課題については、「あいあい」の活動報告の分析を通して検討した。活動報告は、「子ども関連（子どもとの関わり等）」、「保護者関連（母親との関わり等）」、「全体の構成・進行関連やその他感想」の3つの項目について、気づいたこと・学んだこと等の自由記述である。

倫理的配慮として、活動記録を研究・教育に用いることについては、学生には研究の目的、分析の方法、個人情報情報の守秘について説明し、個人が特定されることがないこと、成績にも全く関係ないことを確認し了解を得た。

分析には、樋口(2014)⁸⁾の開発した計量的テキスト分析ソフトであるKH coder 3を用いた。分析手順は、提出された活動報告をExcel入力し、電子化をした上で、「子ども関連（子どもとの関わり等）」、「保護者関連（母親との関わり等）」、「全体の構成・進行関連やその他感想」の3つの項目ごと、2～4の各学年のテキストデータについてChaSen（茶筌）を用いて形態素分析を行い、抽出語を出現頻度順に並び替えた。さらに上位30位までの出現パターンの似通った共起関係を線で表したネットワーク図（共起ネットワーク図）を作成した。抽出された語や共起ネットワーク図の分析も参考に、学生の意識について検討した。

「保護者関連」の記述から検討すると、1回目の実践では、2回生は保護者との関わり方が全くわからない状況において、上級生が保護者に関わる様子等から、保護者に関わることが出来る時間の貴重さや、保護者と直接関わる経験の大切さについて理解を深めているコメントが多くみられた。また、6回すべてのコメントについて、実施回ごと回生別の単純集計を行ったところ、抽出語の出現頻度から、1回目の「全体の構成・進行関連やその他感想」に特徴がみられた。2回生にのみ上位5位中に「先輩」「ペア」「緊張」がみられた。先輩のリードにより学びがあったことや、先輩とペアの活動により安心感があり勉強になること等、上級生と一緒に活動することによって支えられている状況がうかがえた。「緊張」「不安」という表現も2回生に関して抽出されるが、経験を重ねた3・4回生のコメントにはほとんどみられなかった。一方、4回生からは、下級生には関わり方を参考にしてほしいというような自分たちから学ぶ後輩を意識するコメントがみられ、本教育方法による成果がうかがえる。2回生で初めて

直接的な保護者との関わりが始まり、3 回生の多くが2 回生から参画して第2 段階目の経験的学習を積む。4 回生は3 年目の経験を重ねていくことと同時に、上の学年が下の学年を育てようという意識と実践から、段階を追った学びによる保護者支援の実践力向上を実現していると考え。分析件数が限られているため断定的には言えないものの、2 つの課題に対し一定の効果が認められたと考える。

4. 新型コロナウイルス感染症拡大の状況下での保護者参加型教育プログラムの実施

(1) 実施状況

2020 年度の保護者参加型教育プログラムの実施状況を表2 に示した。比較するため、2019 年度の実施状況を表3 に示す。例年、「よつばのクローバー」は3 回、「あいあい」は6 回、計9 回実施している。

「よつばのクローバー」は前期開講科目の「世代間交流演習」で実施しているため、2020 年度は7 月の1 回のみとなった。大学より「新型コロナウイルス感染症の予防と対応 第2 報」が2020 年5 月25 日に発令された。内容は、「新型コロナウイルス感染症の拡大により、2020 年4 月から緊急事態宣言が出され、外出規制と自宅待機を徹底してきたため、ようやく全国的に感染症の発生が治まりつつあります。相愛大学では、4 月は休校、5 月から非対面でのインターネット授業が開始されています。今後、自宅待機での非対面の授業から、登校して対面授業や大学活動が始まるようになります。引き続き、新型コロナウイルス感染症予防の継続は必要です。その基本は、自己の健康管理になります。」である。「世代間交流演習」の授業では、「よつばのクローバー」が予定通り実施できないため、昨年度までの「よつばのクローバー」の常連 A 児（年少組）と B 児（5 年生）の二人の子どもとその母親に協力をお願いし、

表2 2020（令和2）年度「保護者参加型教育プログラム」の実施状況

	プログラム （取り組み）名	実施日	取り組みの概要	参加・履修 学生数	参加 （協力）者
1	よつばのクローバー①	7/22（水）	学生主体で企画、実施する地域子育て支援活動。毎回いろいろな遊びのコーナーや実演を準備し、遊びのひろばを開設する。保護者は子どもと一緒に活動に参画し、学生と対話したり、活動の中で気づいたことや感想を学生に伝えたりする。	14	未就園児とその保護者 4 組
2	あいあい相愛おはなしのへや①	7/30（木）	おはなし隊（学生）が絵本や大型絵本、パネルシアター、エプロンシアター、ペープサート、紙芝居、お話し劇等、様々なスタイルでおはなしを実演し、子どもも大人も一緒に楽しむ。（実演：ころころころ、パンダなりきりたいそう、おべんとうバス）	15	未就園児とその保護者 7 組
3	あいあい相愛おはなしのへや②	9/24（木）	同上（実演：まんまるまんま、だるまさんが、おしくらまんじゅう、まほうのでんしレンジ、さかながはねて）	15	3 組
4	あいあい相愛おはなしのへや③	12/19（土）	同上（実演：赤鼻のトナカイ、あわてんぼうのサンタクロース、おおきなかぶ）	15	9 組（うち 両親1 組）
5	あいあい相愛おはなしのへや④	2/4（木） （予定）	1 月に検討	15 （予定）	

表3 2019（令和元）年度「保護者参加型教育プログラム」の実施状況

	プログラム (取り組み) 名	実施日	取り組みの概要	参加・履修 学生数	参加 (協力) 者
1	よつばのクロー バー①	5/15 (水)	学生主体で企画、実施する地域子育て支援活動。毎回いろいろな遊びのコーナーや実演を準備し、遊びのひろばを開設する。保護者は子どもと一緒に活動に参画し、学生と対話したり、活動の中で気づいたことや感想を学生に伝えたりする。	12	未就園児とその保護者 11 組
2	よつばのクロー バー②	6/5 (水)	同上	12	同上
3	よつばのクロー バー③	7/3 (水)	同上	12	同上
4	あいあい相愛お はなしのへや①	5/23 (木)	おはなし隊（学生）が絵本や大型絵本、パネルシアター、エプロンシアター、パープサート、紙芝居、お話し劇等、様々なスタイルでおはなしを実演し、子どもも大人も一緒に楽しむ。(実演：パンダなりきりたいそう、まほうのでんしレンジ、ぴょーん、おおきなかぶ)	24	未就園児とその保護者 12 組
5	あいあい相愛お はなしのへや③	7/25 (木)	同上（実演：ぞうくんのさんぽ、いぬのおまわりさん、おべんとうバス、ともだちや）	23	13 組
6	あいあい相愛お はなしのへや④	9/26 (木)	同上（実演：はらぺこきょうりゅうぺこべこくん、おめんです、アンパンマンとドキンちゃん、でんしゃにのって）	21	13 組（うち 両親 1 組）
7	あいあい相愛お はなしのへや⑤	11/21 (木)	同上（実演：わたしはだあれ、とつとことつとこ、なきごえバス、だるまさんが）	20	16 組
8	あいあい相愛お はなしのへや⑥	12/14 (土)	同上（実演：赤鼻のトナカイ、あわてんぼうのサンタクロース、てぶくろ）	22	15 組（うち 両親 3 組）
9	あいあい相愛お はなしのへや⑧	2/6 (木)	同上（実演：はずかしがりやのきょうりゅうクランチあいさつのえほん、やさいのおなか、はらぺこあおむし、3 匹のやぎのがらがらどん）	16	18 組

Teams を使って約 30 分の中継を行った。倫理的配慮については説明し、承諾を得た。学生たちが事前に質問を検討し、オンラインで取材した。履修学生 14 名だったこともあり全員が、コロナ禍での家庭での過ごし方や母親の悩み等直接聞くことができ、多くの発見や驚きが得られた。ここでの情報をふまえ、表 2 の「よつばのクローバー①」の活動内容を立案し、実施した。

「あいあい」は「保育・教育マネジメント B～D」の通年科目で実施するため、4 回開催予定である。「あいあい」を実践するおはなし隊の 2020 年度授業計画を表 4 に示した。先に示

した表 1 と比較すると、事前準備、事後ふり返りを加え 2019 年度は 28 回、2020 年度は 21 回である。表 2・3 の参加（協力）者から明らかのように、2020 年度はやはり人数が少なかった。「あいあい」の第 1 回目開催募集では、定員 10 組がすぐに埋まった。開催を待っていてくださった様子がうかがえた。

(2) 実施方法

新型コロナウイルス感染予防の観点から、募集定員を 15 名から 10 名に下げた。参加保護者には事前に資料 1 と資料 2 を郵送した。おはなし隊全員（学生・教員）の「健康観察記録表」

表4 「おはなし隊」の2020年度「保育・教育マネジメントB～D」授業計画

回数	実施日	授業内容（「あいあい」実施日は主な活動内容）
第1回	7月14日（火）	オリエンテーション、実践計画作成
第2回	7月21日（火）	実践準備、模擬実践
第3回	7月23日（木）	練習日
第4回	7月28日（火）	練習日
第5回	7月30日（木）	実践準備、模擬実践（リハーサル）
第6回	7月30日（木）	○えほん（パネルシアター）『ころころころ』 ○えほん『パンダなりきりたいそう』 ○おはなし劇『おべんとうバス』 ○おはなし隊と絵本を読もう（おはなし隊と絵本を読んだり、好きな色のおはながみでボールを作り、作ったボールを転がす等好きな遊びを楽しむ。） ◆片付け後に本日の活動の感想コメント
第7回	9月15日（火）	実践計画作成、実践準備
第8回	9月17日（木）	実践準備、模擬実践
第9回	9月23日（水）	実践準備、模擬実践（リハーサル）
第10回	9月24日（木）	○紙芝居『まんまるまんま』 ○大型絵本『だるまさんが』 ○大型絵本『おしくらまんじゅう』 ○おはなし劇『まほうのでんしレンジ』 ○パネルシアター『さかながはねて』 ○おはなし隊と絵本を読もう（おはなし隊と絵本を読んで楽しむ。） ◆片付け後に本日の活動の感想コメント
第11回	12月8日（火）	実践計画作成、実践準備
第12回	12月9日（水）	実践準備、模擬実践
第13回	12月15日（火）	練習日
第14回	12月16日（水）	練習日
第15回	12月17日（木）	実践準備、模擬実践（リハーサル）
第16回	12月19日（土）	○歌とパネルシアター『赤鼻のトナカイ』 ○うたと合奏『あわてんぼうのサンタクロース』 ○おはなし劇『おきなかぶ』 ○おはなし隊と絵本を読む ・好きな絵本を選んで絵本を読む
第17回	未定	実践計画作成、実践準備
第18回	未定	実践準備、模擬実践
第19回	未定	実践準備、模擬実践（リハーサル）
第20回	2月4日（木）	1月に検討
第21回	2月4日（木）	動画による実践記録を活用した総合的なふり返し、課題抽出（1年間の「おはなしのへや」活動報告内容から）

注）表中の「あいあい」は「あいあい相愛おはなしのへや」の通称である

を必ず担当教員がチェックした。さらに、保育演習室の入り口では非接触型体温計で、開始前に全員が検温を実施した。

保育演習室・子育て支援室内の配置等について

では、個々の子どもが手に持って遊ぶプロステック製の玩具等で自由に遊べるコーナーは設置しないこととした。さらに、プラスチック製の大型遊具を並べたアスレチックコーナーや風船

資料1 相愛大学子ども発達学科「あいあい相愛おはなしのへや」保護者連絡表

2020年12月15日

相愛大学子ども発達学科・住之江区役所協働プロジェクト
「あいあい相愛おはなしのへや」 保護者連絡表

1. お願い

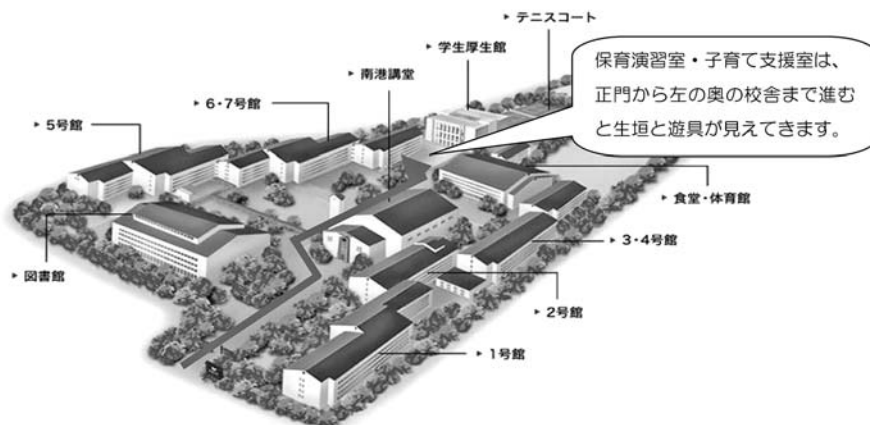
- ・参加される方は全員必ず検温し、別紙の健康観察表に記入して持参下さい。37.5℃以上の発熱、咳、咽頭痛、体調不良の方は申し訳ありませんが参加出来ませんので、ご了承下さい。
- ・乳児を除き、保護者もお子さまもマスクの着用をお願いします。
- ・子育て支援室入室の際は、消毒（手洗い）をお願いします。
- ・子育て支援室での水分補給は、所定の場所をお願いします。

2. 当日の持ち物や開催場所について

水筒やハンカチ、タオル等は各自でご用意ください。健康観察表を必ず持参して下さい。

日時：12月19日(土) 10:30～11:30

場所：相愛大学 7号館 保育演習室・子育て支援室



3. 個人情報について

本講座の写真・実施内容を大学ブログや大学広報誌などへ記載、講座の実施報告資料に利用する予定です。お名前・ご住所などは一切利用致しませんが、写真や実施内容についての掲載を望まれない方はメールや電話でご一報いただきますようお願いいたします。

相愛大学 子ども発達学科 合同研究室

TEL：06-6612-6227

FAX：06-6612-6038

E-mail：kodomo-g@soai.ac.jp

資料2 あいあい相愛おはなしのへや 参加者 健康観察表

あいあい相愛おはなしのへや 参加者 健康観察表																		
<p>以下の条件に該当する方は参加できません。</p> <p>① 当日発熱や咳のある方</p> <p>② マスクを着用していない方</p> <p>・発熱や咳の有無（付き添いの方もご記入ください）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 40%;">名前</th> <th style="width: 20%;">体温</th> <th style="width: 40%;">咳の有無</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="height: 40px;"></td> <td style="text-align: center;">℃</td> <td style="text-align: center;">有 ・ 無</td> </tr> <tr> <td style="height: 40px;"></td> <td style="text-align: center;">℃</td> <td style="text-align: center;">有 ・ 無</td> </tr> <tr> <td style="height: 40px;"></td> <td style="text-align: center;">℃</td> <td style="text-align: center;">有 ・ 無</td> </tr> </tbody> </table> <p>・本学までの交通手段</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">交通手段</th> <th style="width: 70%;">公共交通機関ご利用の場合は利用した駅をご記入ください</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="height: 60px; vertical-align: top;"> 徒歩 ・ 自転車 ・ 車 地下鉄 ・ バス その他（ ） </td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right; padding-right: 50px;">以上の項目に間違いありません。</p> <p style="text-align: right; padding-right: 50px;">日付： 2020 年 12 月 19 日（土）</p> <p style="text-align: right; padding-right: 50px;">保護者氏名： _____ (印)</p>			名前	体温	咳の有無		℃	有 ・ 無		℃	有 ・ 無		℃	有 ・ 無	交通手段	公共交通機関ご利用の場合は利用した駅をご記入ください	徒歩 ・ 自転車 ・ 車 地下鉄 ・ バス その他（ ）	
名前	体温	咳の有無																
	℃	有 ・ 無																
	℃	有 ・ 無																
	℃	有 ・ 無																
交通手段	公共交通機関ご利用の場合は利用した駅をご記入ください																	
徒歩 ・ 自転車 ・ 車 地下鉄 ・ バス その他（ ）																		

等も子どもに人気であるが、今回使用しないこととした。3密やウイルスが付着しやすい素材のものを避けた活動内容を、学生が中心で検討した。「あいあい」での演目については、先輩たちの上演リストの中から、3密を考慮し決定した。

(3) おはなし隊学生の学び

2020年度の「あいあい」3回分（投稿時点で実施済み）の活動報告から、コロナ禍で制限の

ある実施における学生の学びを検討した。倫理的配慮については、年度初めに子ども発達学科長より、「教員による教育改善のための分析・研究への協力をお願い」として、授業で提出したコメント等、学修過程の記録や成果を教育改善のための分析・研究に用いる場合があることや、成績に影響しないこと、個人が特定されないよう配慮することを、子ども発達学科の学生全員に説明し、了承を得ている。

① 2020 年度の特徴的記述から

○第 1 回目が 7 月 30 日開催（前回は前年度の 2 月 6 日）であったことから

4 回生は全員が、「久しぶりに子どもたちと会えて」「久しぶりに子どもたちと関わって」の書き出しになっていた。通常の実施方法より子どもの成長が見えたことや、前回よりも子どもたちがパワーアップしていることが述べられており、昨年度までの体験を踏まえた内容になっていた。3 回生も、2 回生次から参画しているメンバーは、4 回生と同様、前回の活動時と比べて気づいたこと等が報告されていた。

○参加人数の少なかったことから

「過去最少人数と言ってもいいくらいでした」「今回は子どもたちの人数が少なかった」という記述が、特に第 2 回「あいあい」の活動報告のほとんどにみられた。参加人数が少ないことで、ふれあう機会が少なくなりじっくり関わるができなかったという学生が多かった。学生 15 名に対し子どもが 3 人であったため、やはり学生の体験を通した学びを考慮すれば、ある程度の参加人数が必要である。しかし、少ないことに対し否定的な意見ばかりではなかった。「お話しの上演時は人数が少ない分集中しているようだった」や、「人数は少なかったが、A ちゃん、B くん、C くん（いずれも「あいあい」3 年目の子ども）に会えてうれしかった」という感想もみられた。

○コロナ禍であったことから

「部屋中を走り回ったり、たくさん動いて遊んでいる様子を見て、コロナでなかなか公園にも行きにくいので、子どもたちが発散できる場所を作ることができて良かった」「コロナの影響もあってか、いつもより走り回る子どもが多かったように感じた」「いつも以上に走り回っていて、園でもあまり動けないからストレスが

たまっていたのかなと思った」「コロナの影響でおもちゃが出せなかった。いつもならたくさん出しているものが全然なくて、とても悲しそうな顔をしていたのが見えても悲しくなった」というように、子どもの変化を丁寧にとらえていた。一方、「コロナの影響がある中、子どもが楽しみにしていると言って活動に参加してくださるその思いに見合う援助が私はできなかった」というような報告もみられた。



あいあい写真①

② 保護者との関わりに関する記述から

2020 年度は実施回数が例年より少ないが、すでに終了している 3 回の実践での保護者との関わりに関する記述から、保護者対応の変容について事例をあげて考察する。

○事例 1

1 回目：今回の活動では保護者の方とお話しすることができませんでした。保育や教育の道に進むためには、やはり保護者との対話やコミュニケーションが大切だと思います。・・・このような活動を通して保護者の方と積極的にお話しをしたいと思います。次回の活動では、保護者の方と少しでもお話ししたいです。

2 回目：子どもたちと自由に絵本を読む時間に、保護者の方と中西先生、和田先生と一緒にお話しすることができました。

3 回目：今回の活動では少しですが、自分から

保護者に対して話しかけることを意識しました。しかし、話しかけた後の言葉のつなががうまくできませんでした。これからも積極的に話しかけることは続け、その後のお話しができるように、先生や先輩の話し方を見て学びたいと思います。

(考察) 事例1は2回生であるため、1回目が初めての保護者との交流の場であった。話せなかったが、保護者とのコミュニケーションの大切さには気づいており、次回以降への意欲を示している。2回目は、教員の媒介を活用し、一緒に話の輪に入ることができている。3回目は、自分から話しかけることができている。さらに、次の課題も見だしており、どのように学ぶかも考えている。

○事例2

1回目：今回は挨拶程度で保護者の方と会話したりして関わることはできませんでした。近くに保護者の方はおられたのですが、保護者の方同士で話されていたので、割り込まない方がいいのかなといろいろ考えてしまいました。次の時には、タイミングを見計らって積極的に関わっていきたいと思いました。

2回目：今回は自分から積極的に行動することを意識し、保護者の方に声をかけてみました。初めは緊張しましたが、保護者の方はとても優しく、私の問いかけにも丁寧に答えてくださり、今の園の現状であったり、子どもの性格等聞くことができました。また、他の保護者の方といろいろ話してみたいなと思いました。

3回目：今回は子どもとの関わりに集中したため、あまり保護者の方と話すことができませんでした。次回はたくさんお話ししたいと思います。

(考察) 事例2も2回生であり、1回目が初めての親子との交流の場であった。近くに保護者

が居ることは把握できており、話かけようという意識がうかがえる。保護者同士が話をしている輪に入るタイミングは教員でも難しい。2回目は自分から声をかけることができている。幼稚園の現状や子どもの性格等複数の話題で会話が展開されており、もっと聞いてみたいという興味・関心を高めている。3回目は演目への出番も多かったこともあり、コミュニケーションは図れなかったが、決して意欲をなくしているわけではない。

○事例3

1回目：子どもたちと遊んでいる時に近くで保護者の方が会話をしていたり、子どものことを見ていたので言葉かけをしてみようと思いましたが、勇気が出ず話しかけることができませんでした。次回は自分から積極的に話しかけ、関わりにいきたいです。

2回目：今回は保護者の方と自由時間に関わってみました。子どもの家での様子や、保育園での様子、「あいあい」に行くのが好きなこと等、楽しいお話しができました。保護者の方と実際に話をする中で、保護者の視点から話を聞くことができて良かったです。

3回目：今回保護者の方とお話することがなかなかできませんでした。子どもと関わることばかりに気を取られ、前回から目標にしていた自分から積極的に声をかけることができなかったため、次回は保護者の方とも子どもとも同じくらい関わるができるようにしていきたいです。

(考察) 事例3も2回生である。初めての回は、近くの保護者が気になっているが、会話をしている保護者に声をかけるのは難しい。2回目は自由時間をうまく使って、家や園での様子、あいあいに来るのが好きなこと等楽しく話をする体験ができている。さらに保護者と実際に話を

して視点の違いに気づいている。3回目は子どもとの関わりに集中してしまったとはいえ、子ども理解と保護者理解を同時進行したいという適切な課題の設定に至っている。

○3・4回生は全員が昨年度からの経験者であるため、顔見知りの子どもや保護者との関わり方として直接話しかける以外の方法がみられ、保護者への理解を深めている様子がうかがえた。新聞紙遊びのとき、「家なら散らかしてしまったり片付けがあるけど、『ここならやってもいいよ』って言うてもらえて良かったね」と子どもに話しかけているのを聞き取り、家での親子の様子を想像したり、危ない遊び方をするわが子を注意する母親の態度に感心したり、「元気すぎてこのまま幼稚園に入ったらたくさん怒られそう」と心配する保護者の話し相手になったり、「学生さんは、子どもの『これなに?』にきちんと応えてくれるので助かっていると話しかけられたりと、保護者とさまざまな関わり方を展開していた。また、「保護者と関わるというより、子どもと関わる上で保護者と関わった」という意見や、「次回の『わくわく』（親子で参加できる遊びのひろば）も申し込んだよ」というように気さくに話ができていた様子もみられた。

5. まとめと今後の課題

保護者支援を実践できる保育者を養成する教育方法として、保護者参加型教育プログラムの開発について研究してきた。PDCAを通して、2つの課題①「活動の実施回数」の改善、と②「学生の意識」の改善に取り組んだ。改善したプログラムでの実施を試み、分析件数が限られているため断定的には言えないものの、2つの課題に対し一定の効果が認められた。

そして、保護者参加型教育プログラムの本格実践に取り組む中、新型コロナウイルス感染症拡大となった。新型コロナウイルス感染症拡大の状況下で、可能な限り学生の学修機会の確保をめざし、保護者参加型教育プログラムの実践方法を工夫し、実施を試みた。活動回数や内容等が制限された状況であったが、体験を通して保護者理解及び子ども理解を深め、保護者と関わる実践力を高める学びのプロセスが確認できた。今後もいかなる状況下にあっても実施に向けた工夫を検討し、継続した実践を試みていきたい。

謝辞

本研究の一部は、JSPS 科研費の助成を受けた16K00770「保育者養成課程で保護者支援を実践できる力をもつ保育者を養成する教育方法の研究」の一環として実施したものです。

引用文献・参考文献

- 1) 増田まゆみ・小櫃智子・佐藤めぐみ・石井章仁・高辻千絵・爾寛明・尾崎司・倉掛秀人・若山剛「保育所実習における保護者支援の学びを可能にする実習指導のあり方」東京家政大学研究紀要第55集 (1) pp.39-47 (2015)
- 2) 橘知里・小原敏郎「保育者の子育て支援力の養成に関する研究－養成段階からの学びの連続性に着目して－」日本家政学会誌 Vol.65 No.8 pp.415-422 (2014)
- 3) 福井逸子・小栗正裕・瀧川光治「『子育て支援力』育成のための保育士養成教育に関する研究 (1)－短期大学へのアンケート調査を通して－」北陸学院大学・北陸学院大学短期大学部研究紀要 第1号 pp.135-150 (2009)
- 4) 福井逸子・小栗正裕・瀧川光治「『子育て支援力』育成のための保育士養成教育に関する研究 (2)－サービス・ラーニングにおける学生のジャーナルの分析を中心に－」北陸学院大学・北陸学院大学短期大学部研究紀要 第2号 第1分冊 pp.65-75 (2010)
- 5) 小原敏郎・安部久美「保育者養成校における学生の保育・子育て支援活動の社会的スキル、

- 子育て支援力・保育観の検討」共立女子大学
家政学部紀要 第 64 号 pp.109-121 (2018)
- 6) 中西利恵「教育型② 相愛大学『よつばのク
ローバー』」小原敏郎・入江礼子・白川佳子編
著「保育・子育て支援演習」萌文書林
pp.120-131 (2017)
- 7) 中西利恵「『よつばのクローバー』活動と子ど
も理解～相愛大学」入江礼子・小原敏郎編著
「子ども理科の理論及び方法 ードキュメンテ
ーション（記録）を活用した保育」萌文書林
pp.204-215 (2019)
- 8) 樋口耕一、社会調査のための計量テキスト分
析－内容分析の継承と発展を目指して－、ナ
カニシヤ出版、2014 年
- 9) 小原敏郎・中西利恵・直島正樹・石沢順子・
三浦主博「保育者養成校がキャンパス内で行
っている子育て支援活動に関する調査研究」
共立女子大学家政学部紀要 第 62 号 pp.153-
163 (2016)